

著者紹介（執筆順，＊は編者。①所属・職位，②最終学歴，③業績）

＊村上勇介（むらかみ ゆうすけ）

【第1章・第5章・第8章・第15章・コラム1・コラム4・コラム6】

①京都大学東南アジア地域研究研究所教授

②筑波大学大学院修士課程地域研究研究科修了，筑波大学博士（政治学）

③*Perú en la era del Chino: la política no institucionalizada y el pueblo en busca de un salvador*. Ideología y política 27, 4^a. edición, 2 tomos, Lima: Instituto de Estudios Peruanos, 2023.

América Latina en la encrucijada: coyunturas cíclicas y cambios políticos recientes (2010-2020). Coeditado con Enrique Peruzzotti, Veracruz, Xalapa, México: Universidad Veracruzana, 2021.

Sueños distintos en un mismo lecho: desencuentros entre Perú y Japón durante la década de Fujimori. Ideología y política 20, 2^a. edición, Lima: Instituto de Estudios Peruanos, 2019.

馬場香織（ばば かおり）

【第2章・コラム2】

①東京大学大学院法学政治学研究科教授

②東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了，博士（法学）

③「メキシコ—パリテ議会がもたらす政策とその効果」三浦まり編『ジェンダー・クオータ
がもたらす新しい政治—効果の検証』法律文化社，2024年。

「メキシコの政党システム変容を捉える」日本政治学会編『年報政治学』2021(2)，2021年。

『ラテンアメリカの年金政治—制度変容の多国間比較研究』晃洋書房，2018年。

狐崎知己（こざき ともみ）

【第3章・第10章】

①専修大学経済学部教授

②上智大学国際関係論専攻博士後期課程満期退学

③「開発—長期的発展経路と決定的な分岐」『ハイチとドミニカ共和国—ひとつの島に共存
するカリブ二国の発展と今』アジア経済研究所，2018年。

「市民の安全保障のジレンマ—中米における安全保障の多様な異」『21世紀の政治と暴力』
晃洋書房，2015年。

『グアテマラ内戦後—人間の安全保障の挑戦』（共編著）明石書店，2009年。

*** 山岡加奈子**（やまおか かなこ） 【第4章・第12章・第13章・第15章・コラム3】

- ①アジア経済研究所主任研究員
- ②シカゴ大学国際関係学科修士課程修了，修士（国際関係学）
- ③*Japan, Latin American and the Caribbean: Working Together in a New Indo-Pacific*, (共著) Edward Elgar, 2026.
『ハイチとドミニカ共和国—ひとつの島に共存するカリブ二国の発展と今』（編著）アジア経済研究所，2018年。
『岐路に立つキューバ』（編著）岩波書店，2012年。

舩方周一郎（ますかた しゅういちろう） 【第6章】

- ①慶應義塾大学法学部准教授
- ②上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科修了，上智大学博士（国際関係論）
- ③「ブラジルをめぐる域外大国のワクチン外交と国内の反応」『コロナ化した世界—COVID-19は政治を変えたのか』勁草書房，2024年。
『世界の中のラテンアメリカ政治』（共著）東京外国語大学出版会，2023年。
『つながりと選択の環境政治学—「グローバル・ガバナンス」の時代におけるブラジル気候変動政策』晃洋書房，2022年。

菊池啓一（きくち ひろかず） 【第7章・コラム5】

- ①アジア経済研究所地域研究センター主任調査研究員
- ②ピッツバーグ大学政治学部博士課程修了，ピッツバーグ大学博士（政治学）
- ③『現代ラテンアメリカ政治を読み解く』（共編著）アジア経済研究所，2025年。
Presidents versus Federalism in the National Legislative Process: The Argentine Senate in Comparative Perspective. Cham: Palgrave Macmillan, 2018.
『ラテンアメリカの市民社会組織—継続と変容』（共編著）アジア経済研究所，2016年。

*** 出岡直也**（いづおか なおや） 【第9章・第11章】

- ①慶應義塾大学名誉教授
- ②東京大学法学部卒業
- ③「投票選択肢としてのクライエンテリズム—経済投票の枠組との関連への含意を重視したレビュー」『法学研究（慶應義塾大学法学研究会）』97（1），2024年。
「チャベス政権支持増減の要因としてのマクロ経済と再分配政策—世界資本主義の中のラテンアメリカ政治への含意の視角から」『国際政治』（207），2022年。
『アーレントと二〇世紀の経験』（共編著）慶應義塾大学出版会，2017年。

山脇千賀子（やまわき ちかこ）

【第14章】

①元文教大学国際学部教授

②筑波大学大学院博士課程社会科学部研究科（社会学専攻）単位取得退学，修士（社会学）

③*Estrategia de vida de los inmigrantes asiáticos en el Perú*, Lima: Instituto de Estudios Peruanos & The Japan Center for Area Studies, 2002.

『ラテンアメリカン・ディアスポラ』（共編著）明石書店，2010年。

『ラテンアメリカ文化事典』（共著）丸善書店，2021年。

田島久歳（たじま ひさとし）

【第14章】

①元城西国際大学国際人文学部教授

②筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科（史学専攻）単位取得退学，修士（史学）

③『ラテンアメリカ文化事典』（共著）丸善書店，2021年。

『ラテンアメリカン・ディアスポラ』（共編著）明石書店，2010年。

『パラグアイを知るための50章』（共編著）明石書店，2011年。

新木秀和（あらき ひでかず）

【コラム7】

①神奈川大学外国語学部教授

②筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科中途退学

③「グローバル時代を生きる先住民—権利回復から自己表象へ」『ラテンアメリカ 地球規模課題の実践』新評論，2021年。

「エクアドル・アンデス高地における連帯経済の実践—サリナス・グループの事例を中心に」『ラテンアメリカの連帯経済—コモン・グッドの再生をめざして』上智大学出版，2019年。

『先住民運動と多民族国家—エクアドルの事例研究を中心に』御茶の水書房，2014年。